一から十まで自分の責任。それが作物づくりの面白さだろう。

火の国 阿蘇の
恵みのブランド

多犬 zen
Aso City

つくづく、出会いに恵まれた。
夫婦で、まったくはじめてのトマトづくりを決意した
鰐川雄太さん裕子さんは振り返ります。
師匠（受け入れ農家）斉藤信幸さんの導きが
言ってみれば夫婦の新たな道を開き、希望を拓いた。
「抽象的なことでなく、どうすれば農業で生計を立てられるか、
そのことをロジカルに教えてくれました」
まだ就農して二年だが、ハウスに立つ姿は風格に富む。
実践でおぼえたひとつひとつが、
自信となって日々積まれているにちがいありません。
夢はと問われれば、迷うことなく、
地に足のついたトマトの達人となること。

トマト農家
鰐川雄太・裕子

あるがまま、という貴さ。
人と自然が共作する阿蘇。